

# 「もう動かさない！ 原発ゼロでいこう！ 1000人集会」(松江)に行ってきました

9月2日(日)朝9時半に鳥取生協病院前をバス2台で出発。途中、鹿野・倉吉などで乗り込む職員や生協の組合員さんもいて、2台のバスは満席に。プレ企画が始まる12時半ころには会場の「くにびきメッセ」に到着しました。

会場で米子からの参加者とも合流。鳥取からは100名を優に超える参加者となりました。

13時10分、米子で活躍するゴスペルオーブの皆さんの迫力ある歌声がオープニング。開会の後、風力発電で有名な鳥取県北栄町の松本町長のビデオメッセージなどがあり、記念講演には、鈴木悌介さんが登場しました。

鈴木さんは、小田原で慶応元年から続くかまぼこ屋を営み、日本商工会議所青年部の会長などを務めた経験から、現在「エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議」の世話役代表として、地域経済の活性化の柱にエネルギー問題を据えて全国で活動している経験が生き生きと語られました。福島原発事故を受けて東電管内で節電、計画停電が実施され、自らの工場でもさまざまな取り組みを工夫された経験が、安定的に供給されるのが当たり前だった電気について考えるきっかけとなったそうです。

「経済界」の意見として、「原発がなくなれば、電気不足になる。代替エネルギーでは電気代が高くなる。すると、企業は海外に逃げ出し、雇用も失われ、日本の経済は空洞化する。」というような論調がマスコミを通じて流されているが、そう考えない経済人として、原発に頼らない別の道を示し、実行していく必要があると思い、地域で電気を自給することが実現できれば、地域の活性化にもつながり、日本を元気にできると、実践するネットワーク会議をつくったそうです。原発のような巨大な投資に頼らず、自分たちで電気を作る。夢のある講演でした。

講演の後、中国5県で原発ゼロの運動などに取り組んでいる10名の人たちから一言メッセージが発表されました。

集会終了後は、鳥根県庁まで約30分のパレード、鳥取県の参加者も元気に沿道にアピールしました。

(保健企画：西尾)



参加者は1300人。熱気あふれる会場



集会の最後には、みんなで「原発ゼロ」のアピール

